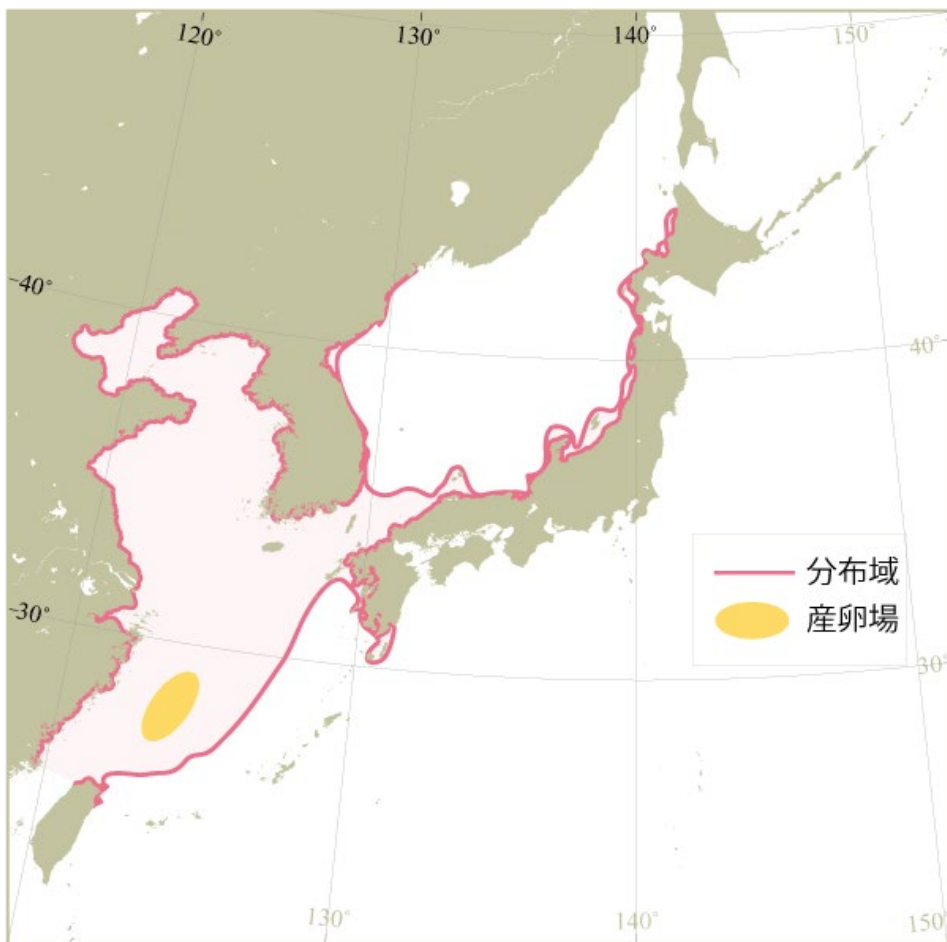




ウマヅラハギ  
日本海・東シナ海系群  
令和3年度資源評価結果

# 生物学的特性

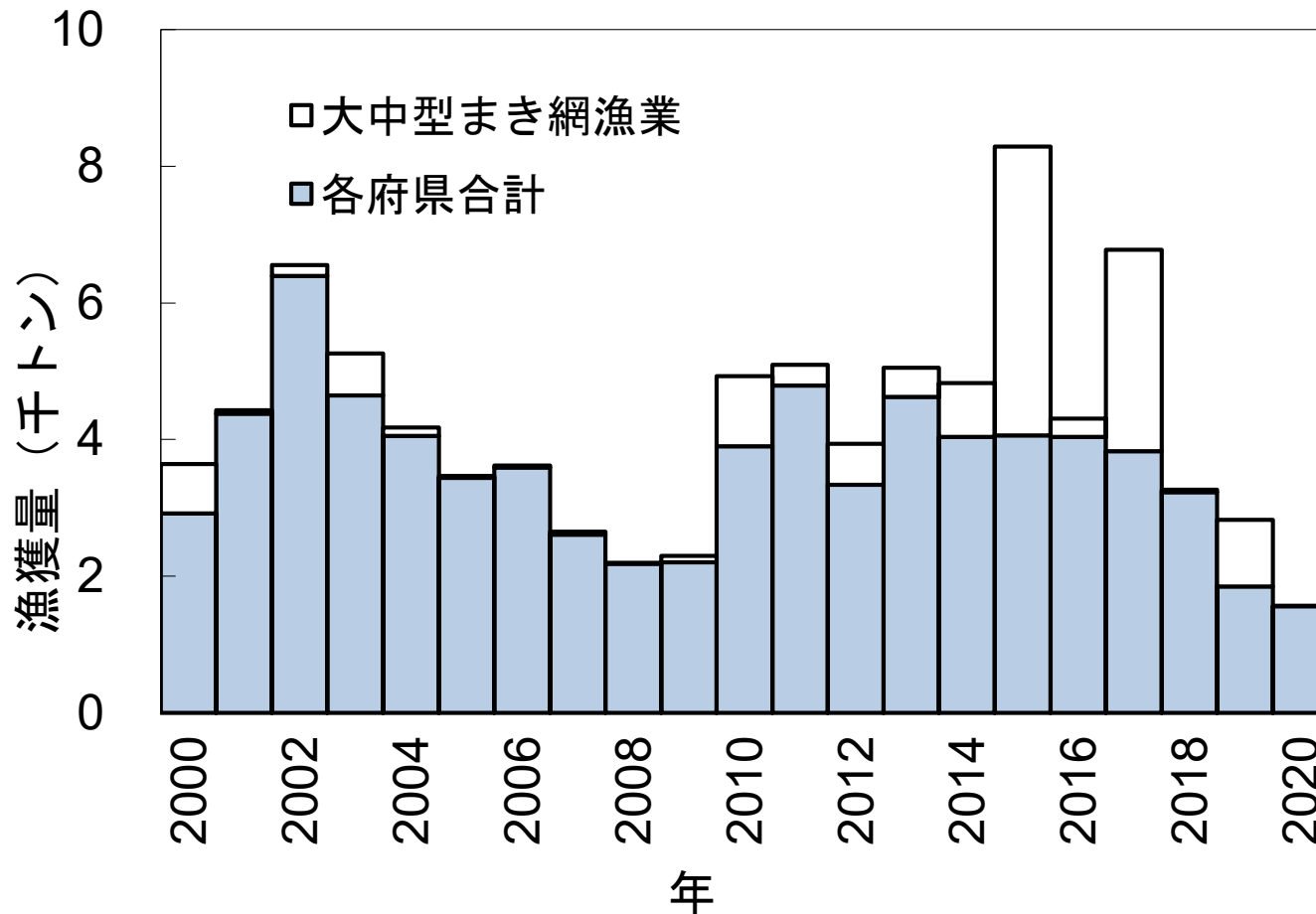


## 生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：筑前海で雌雄ともに1歳、新潟県沿岸の雌で1歳、東シナ海の雌で2歳
- 産卵期・産卵場：東シナ海域では4月～6月、日本沿岸では5月～7月
- 食性：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
- 捕食者：魚類、頭足類等

- 我が国周辺および東シナ海、黄海に分布
- 海域により成長が異なる

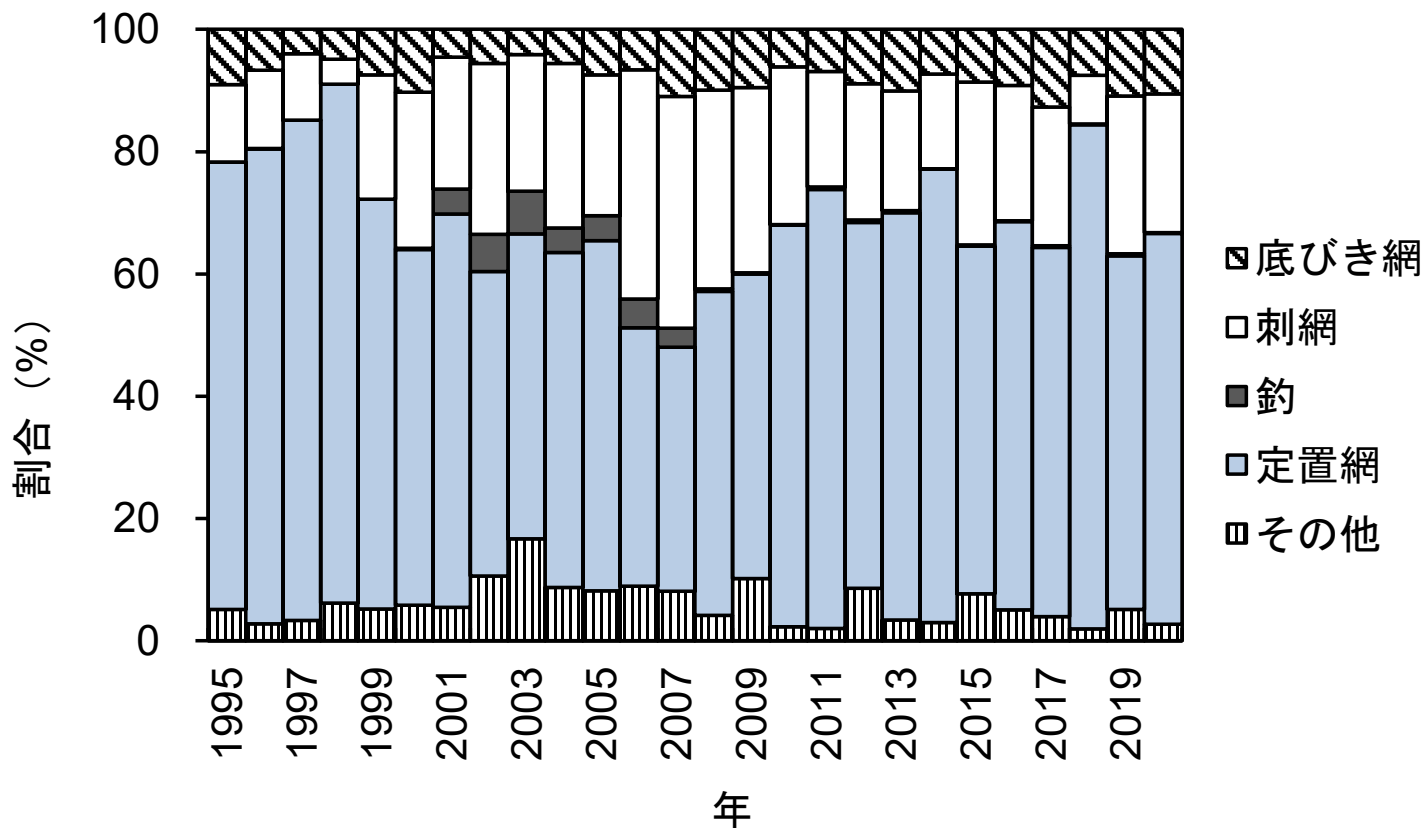
# 漁獲の動向①



- 2018年以降の各府県漁獲量は減少傾向
- 大中小型まき網漁業の水揚げ量は年変動が大きい
- 2020年の漁獲量：1,567トン

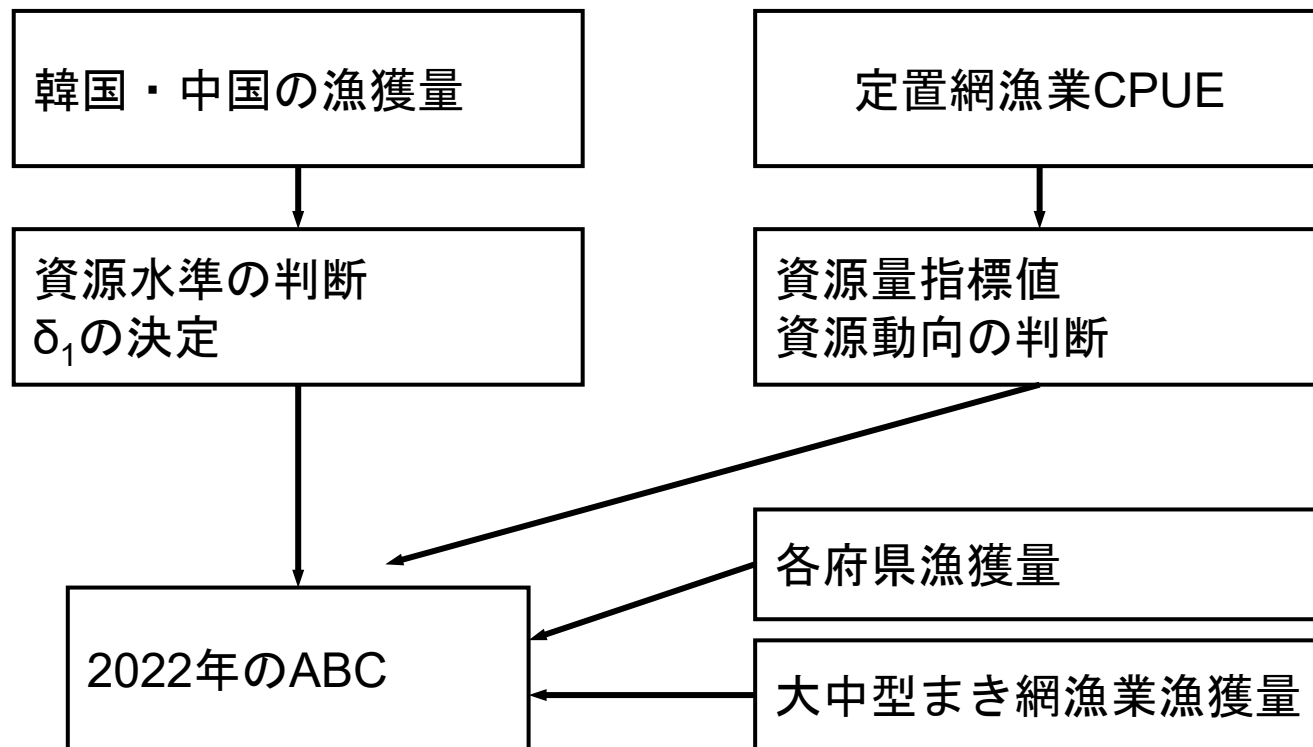
## 漁獲の動向②

石川県におけるウマヅラハギの漁業種類別漁獲量

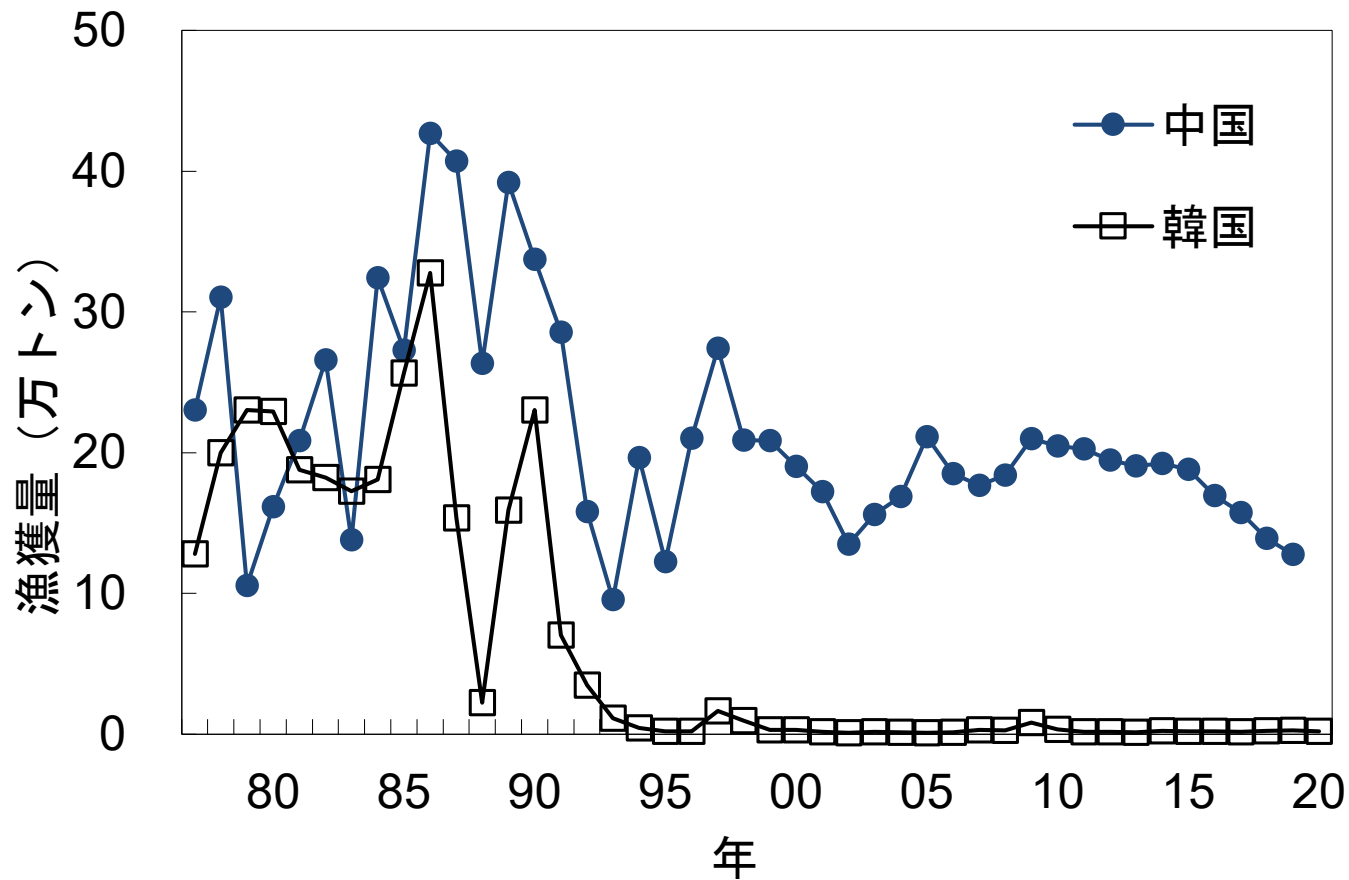


- 石川県では比較的長期の水揚げデータを蓄積
- 定置網漁業による漁獲が最も多い

# 資源評価の流れ



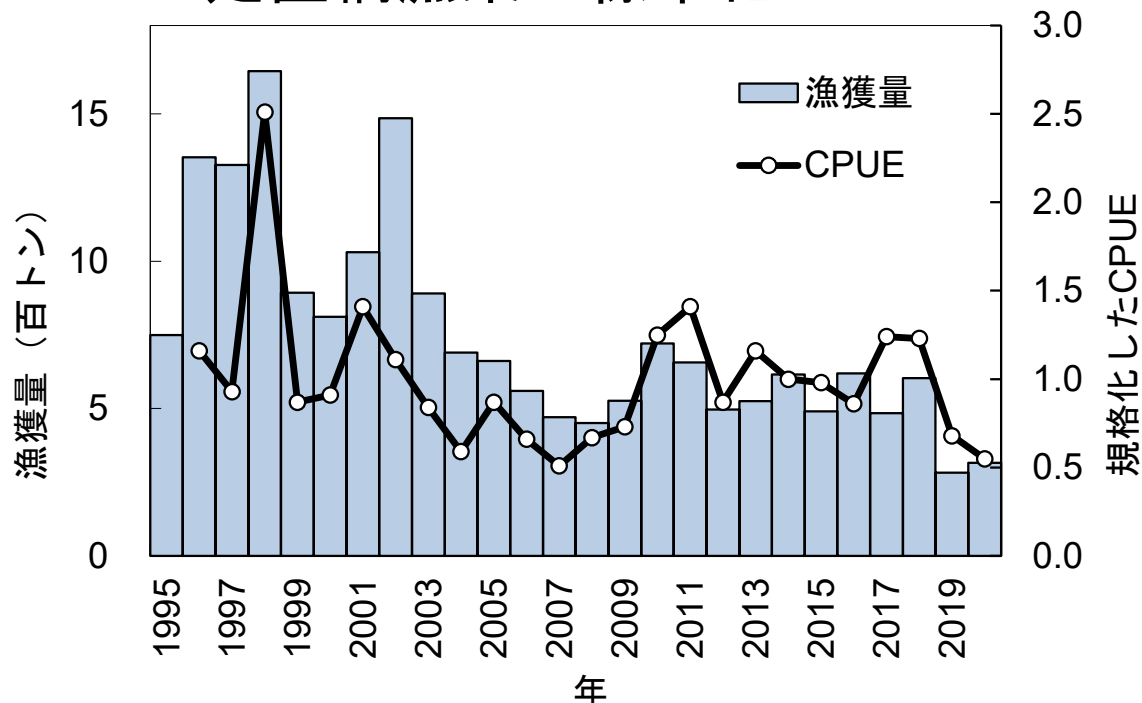
# 資源の動向①



- 1986年のカワハギ類漁獲量は中国と韓国合わせて75万トン
- 1992年以降低い水準で推移
- 資源水準：韓国と中国における漁獲量の水準から「低位」

## 資源の動向②

### 石川県におけるウマヅラハギの漁獲量と 定置網漁業の標準化CPUE



- 定置網漁業の単位努力量あたりの漁獲量 (CPUE) は2009年以降概ね横ばいで推移
- 2018年以降、標準化CPUEは3年連続で低下
- 資源動向：直近5年間の標準化CPUEの推移から「減少」

# 資源評価のまとめ

- ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源水準は低位、動向は減少
- 漁獲量および標準化CPUEに基づいて資源状態を判断

## 2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・0.59	Target	837	—	—
	Limit	1,046	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot Cave-3yr \cdot \gamma 1$  で計算
- $\delta 1: 0.7$  (低位水準で平均漁獲量使用時の推奨値)
- Cave-3yr: 2018年～2020年の平均漁獲量